

# ミッションクリティカルな ソフトウェア開発： ローコードと生成 AI がもたらす 相乗効果



Daniel-Zoe Jimenez  
デジタルイノベーション、CX・ソフトウェア、  
DNB/ スタートアップ、中小企業、コンシューマー・  
チャンネルリサーチ担当バイスプレジデント  
IDC Asia/Pacific



Dhiraj Pramod Badgujar  
シニアリサーチマネージャー  
IDC Asia/Pacific

# 目次



このドキュメントの各セクションに移動するには、以下をクリックしてください。

要約 .....	3
マクロ経済的な制約にもかかわらず、引き続き優先事項である AI、自動化、アプリ開発プロジェクト .....	4
今日のダイナミックなビジネス環境における持続的な成長と成功に不可欠なアプリケーションの刷新 .....	5
イノベーションと成長を妨げる大きな課題となるスキル不足とレガシーモダナイゼーションに対する懸念 .....	6
アジア太平洋地域の組織で増加する、イノベーションと成長の加速に向けたローコードの導入事例 .....	7
組織が開発の課題に対処するためのローコードプラットフォーム .....	8
ローコードテクノロジーを活用したソフトウェア主導の自動化への移行 .....	9
一般的なローコードプラットフォームとエンタープライズレベルのローコードプラットフォームの比較 .....	10
生成 AI の実践 - AI とローコードの連携 .....	11
AI ファーストの開発手法へ移行する企業 .....	12
組織が認める、イノベーションを先導する生成 AI の価値 .....	13
IDC の提言 .....	14
IDC アナリストについて .....	15
スポンサーの紹介 .....	16

# 要約

デジタル化が進むペースに合わせてアプリケーション開発も高速化が求められるようになり、ソフトウェア開発を取り巻く状況は変化しています。ローコードプラットフォームと AI が組み合わせることで、大きな相乗効果がもたらされます。

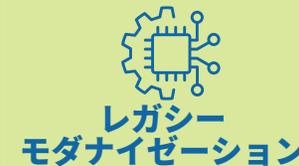
ローコードプラットフォームを使用すると、最小限のコーディングでより高速なアプリケーション作成が可能になり、ソフトウェア開発を効率化することができる一方、AI を活用したローコードプラットフォームを使用すると、さらに一步先へと進み、複雑なプロセスを自動化してインテリジェントなインサイトを提供し、効率と革新性を高めることができます。AI とローコードを組み合わせることで、新しいアプリケーションの作成とレガシー環境の刷新を支援する自動化機能とユーザーフレンドリーなインターフェイスを創出できます。これにより、組織は重要な環境でアプリケーションのパフォーマンスを確保しながら、高速アプリケーション開発に対するニーズの高まりに対応することが可能になるのです。

IDC の調査では、アジア太平洋地域におけるアプリケーションの 60% 以上がレガシーアプリケーションであり、硬直したシステム、保守の負担、スキルギャップ、技術的負債の蓄積などの課題が生じていることが明らかになっています。こうしたシステムの刷新は重要であるものの、開発者の生産性の低さや、時代遅れのアーキテクチャにより、システムは往々にして柔軟性に欠け、変更がしにくくなっています。より迅速なソフトウェア開発を実現するため、組織はローコード、リプラットフォーム、リファクタリングといった先進的なツールとの連携をはじめとする刷新アプローチを採用しています。AI 搭載のローコードプラットフォームを使用することで、組織はソフトウェア開発とレガシーモダナイゼーションの両面において、業務効率、生産性、開発スピードの向上など、革新的なメリットを享受できるようになります。

本 InfoBrief では、生成 AI に着目しながら、この相乗効果を取り上げます。また、組織がネイティブ AI 機能を備えたローコードプラットフォームを効果的に活用する方法を紹介していきます。さらに、本 InfoBrief では、組織が生産性、俊敏性、セキュリティを向上させ、モダナイゼーションを効率化し、アプリケーション開発ライフサイクルを加速するにあたり、ネイティブ AI 機能を備えた AI 搭載ローコードソリューションがどのように支援できるかも扱います。

## アジア太平洋地域の展望

アジア太平洋地域の企業は、ソフトウェア開発環境におけるローコードと生成 AI の可能性を活用する準備が整っています。



**68%** アジア太平洋地域で、先進的な開発ツール（IDE、ローコード、DevOps など）との連携がモダナイゼーション戦略の最優先事項であると考えている企業の割合



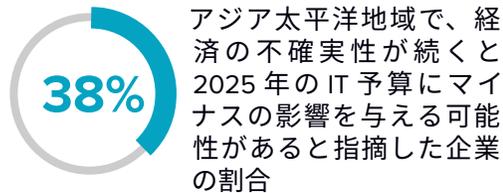
**33%** アジア太平洋地域で、将来を見据えたビジネスを実現するエンタープライズ自動化ソリューションを提供するうえで、ローコードが重要な開発環境であると考えている企業の割合



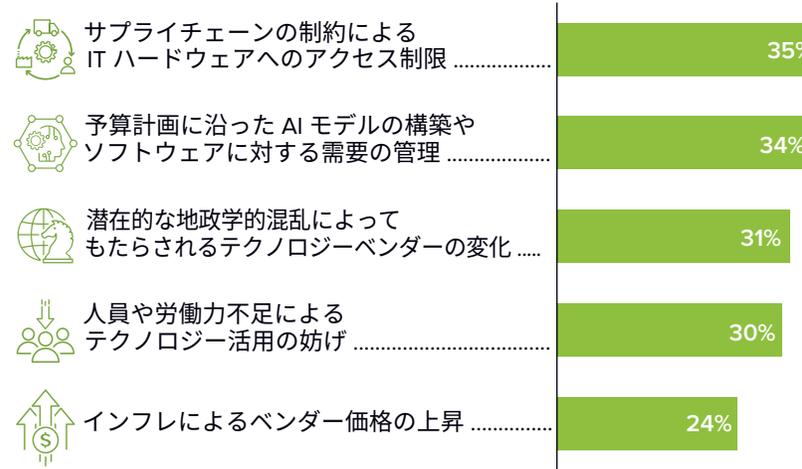
**25%** アジア太平洋地域で、生成 AI を既存のアプリケーションやビジネスプロセスに統合する際にアプリ開発ツールに着目している企業の割合

# マクロ経済的な制約にもかかわらず、引き続き優先事項である AI、自動化、アプリ開発プロジェクト

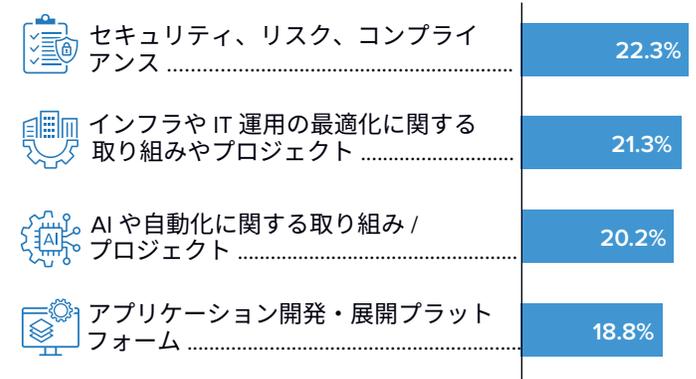
マクロ経済がテクノロジー予算を圧迫する中、AI や自動化関連のプロジェクトは予算削減の影響を受けていません。組織は、回復力、俊敏性、適応力を高めるためにイノベーションの取り組みを加速させる必要に迫られています。そのため、アプリケーション開発・展開は、組織が将来のビジネスの成長を支えるうえで優先事項となっています。



## 今後 12 か月間のテクノロジー戦略と予算に関する主なリスク要因



## 予算削減の影響を最も受けない技術投資分野



出典：Future Enterprise Resiliency & Spending Survey, Wave 3、IDC、2024 年 3 月、n = 300

# 今日のダイナミックなビジネス環境における 持続的な成長と成功に不可欠なアプリケーションの刷新

レガシーモダナイゼーションは、特にマクロ経済の制約がテクノロジー支出に影響を及ぼす場合に、ビジネスとテクノロジーの両方の領域で回復力を維持するために重要となります。そのため、ほとんどの組織では、将来のビジネス成長の促進に向け、アプリケーションの刷新を次年度の主な戦略目標に据えています。IDE、DevOps、ローコードなどの先進的な開発ツールを導入することが、この地域の組織における重要な戦略としてますます支持されるようになってきています。このアプローチにより、IT の大きな制約を受けることなく、組織は機能を向上させ、製品やサービスのイノベーションを促進することができます。

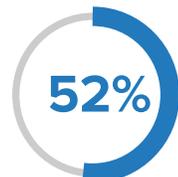
## アジア太平洋地域の企業が今後 12 か月以内に実施する可能性が高い アプリケーション刷新の取り組み



**クラウドへの移行：**  
クラウドネイティブ機能  
にアクセスするための、  
エンタープライズアプリ  
ケーションのクラウド化



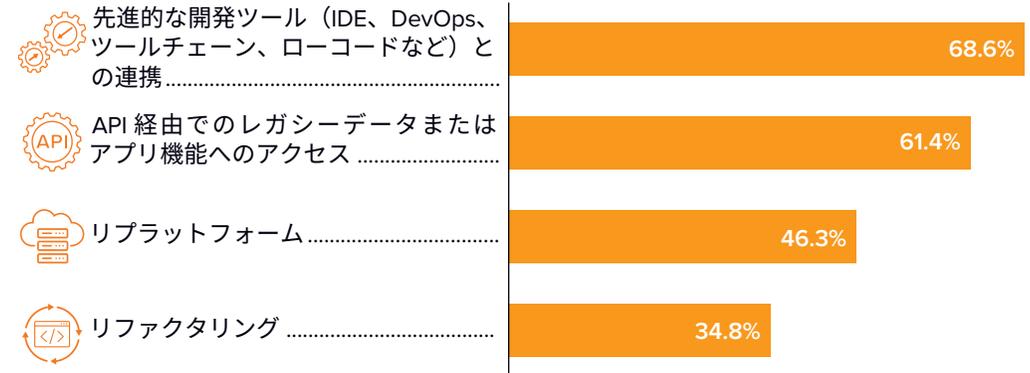
**インフラの刷新：**  
アプリケーションを実行  
する基盤インフラのアップ  
グレード



**メインフレームの刷新：**  
新しいテクノロジーやホス  
トをベースとしたプラット  
フォームへのコードや機能  
の移行

**25%** アジア太平洋地域で、コストやテクノロジーの拡張性以外に、バックエンドやレガシーシステムとの連携に関する問題がデジタルプロジェクトを完了できない理由のひとつであると述べている企業の割合

## アジア太平洋地域の企業に支持される主なモダナイゼーション戦略



出典：IDC Asia/Pacific Software Survey、2023 年、n = 550

# イノベーションと成長を妨げる大きな課題となる スキル不足とレガシーモダナイゼーションに対する懸念

レガシーモダナイゼーションが重要であることは言うまでもありません。レガシーテクノロジーは、その時代遅れの性質、複雑さ、セキュリティの欠如、高額な保守費用のために、イノベーションに大きな課題をもたらしています。こうしたシステムをリプレースすることで、データの損失やビジネス戦略の混乱を招き、コストと時間の問題を引き起こすおそれがあります。開発者の生産性と効率の低下は、先進的なソフトウェア開発の取り組みに関連する問題につながっています。

## レガシーモダナイゼーションに関する 主な懸念事項

- 1 アーキテクチャに、セキュリティ上の懸念に対応できる柔軟性がない
- 2 技術的負債の蓄積
- 3 俊敏性の欠如と限定的な連携能力
- 4 熟練した開発者の不足

## 開発者固有の課題



**俊敏性：**  
ソフトウェア開発・デリバリーチームの対応の遅さ



**生産性：**  
生産性の低さ



**スキル：**  
関連スキルを確保する難しさ

- ✓ 今後数年間で発生すると予測されるアプリケーション開発の急速なペースに対し、有能な開発者の人材不足が課題となっています。
- ✓ 開発者のスキルは、需要の高いテクノロジースキルの上位 5 つに含まれています。アジア太平洋地域では、組織の約 66% がソフトウェア開発者のポジションを埋めることが「非常に難しい、または極めて難しい」と考えています。

ローコードプラットフォームは、ビジュアル開発ツール、AI ツールセット、ビルド済みコンポーネント、フルスタック開発機能を提供します。これにより、企業は開発者の生産性を向上させ、保守コストを削減し、最新のソリューションを既存のインフラにシームレスに統合できるようになり、同時にレガシーテクノロジーのリプレースに伴うリスクや労力を軽減できます。

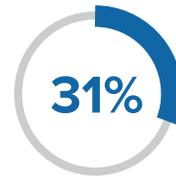
出典：IDC Asia/Pacific Software Survey、2023 年、n = 550、IDC Worldwide Developer Forecast: 2023–2027

# アジア太平洋地域の組織で増加する、イノベーションと成長の加速に向けたローコードの導入事例

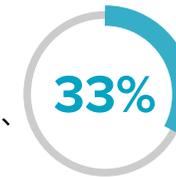
ローコードによる開発テクノロジーやプラットフォームツールを使用することで、アジア太平洋地域の組織は独自のアプリケーションを構築するとともに、激化する競争やレガシーモダナイゼーションの課題、開発者不足、コストなどに対処できるようになります。IDC では、2025 年までに 60% 以上の企業において、ローコードテクノロジーを使用したアプリケーションの作成やプロセスの自動化が可能になり、業務上のパフォーマンスが向上すると予測しています。

## ローコードによるコードレス開発のメリット：

- ✓ ローコードプラットフォームの主なメリットは、複数の機能を通じてもたらされるビジネスの俊敏性です。こうしたプラットフォームは、ビジュアルモデリング、ドラッグ&ドロップ型のインターフェイス、再利用可能なコンポーネント、クラウドネイティブアプリケーションへの対応により、アプリケーションの開発・展開を高速化します。
- ✓ ローコードプラットフォームは、DevOps のプラクティス、AI による自動化、段階的なモダナイゼーションをサポートするとともに、効率的かつ効果的なテストを提供し、コードの可視性を向上させることで、セキュリティ上の懸念を軽減します。
- ✓ さらに、ローコードテクノロジーは、IT ユーザーとビジネスユーザー間の連携の強化、データフローの簡素化、拡張性や柔軟性に優れたアプリケーション開発のサポートのほか、コンポーネントの標準化やワークフローの自動化により保守作業の効率化を実現します。



アジア太平洋地域で、イノベーションを加速させる能力を 2024 年～2025 年のビジネスの最優先事項として挙げている企業の割合（成果の向上に向け、ソフトウェア開発における価値実現までの期間の短縮が重要視されている）



アジア太平洋地域で、将来を見据えたビジネスを実現するエンタープライズ自動化ソリューションを提供するうえで、ローコードが重要な開発環境であると考えている企業の割合

## 地域別展望

将来を見据えたエンタープライズ自動化ソリューションを提供するためにローコードを採用する企業の割合



 オーストラリア



 香港



 インド



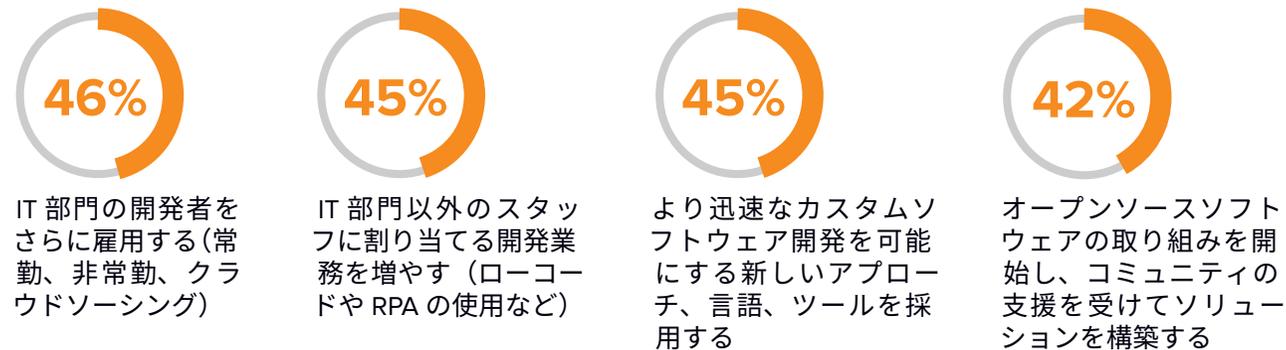
 東南アジア

出典：IDC Asia/Pacific Software Survey, 2023 年, n = 550

# 組織が開発の課題に対処するための ローコードプラットフォーム

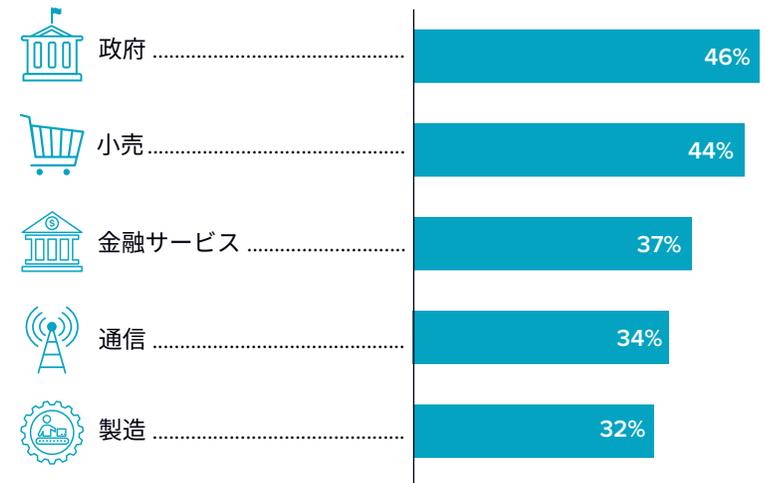
この地域では、32%の企業が、開発者を新しいカスタムソフトウェアプロジェクトに割り当てるために、レガシーITシステムの保守やアップグレードを先延ばしにしています。ローコードプラットフォームは直感的に使用できるため、より多くの人々がアプリケーション開発プロセスに参加するようになり、デジタルスキルのギャップは縮小傾向にあります。

## 開発の課題に対処するための主な戦略



## 業界全体におけるローコードの適合性

ローコードプラットフォームは、デジタルイノベーションを促進するうえで最も重要なツール/テクノロジーのひとつになっています。



出典: Future Enterprise Resiliency & Spending Survey, Wave 11, IDC, 2023年12月, n=250

# ローコードテクノロジーを活用したソフトウェア主導の自動化への移行

ソフトウェア主導の自動化をアプリケーション開発に統合することは、効率の向上に不可欠になりつつあります。現在、技術集約度の低い業界では、多くの企業がローコードによるソフトウェア開発の導入を検討しています。

アジア太平洋地域では、**40%**以上の企業が、ローコードアプリケーション開発手法を、イノベーション活動を促進するうえで最も重要なテクノロジーのひとつと考えています。



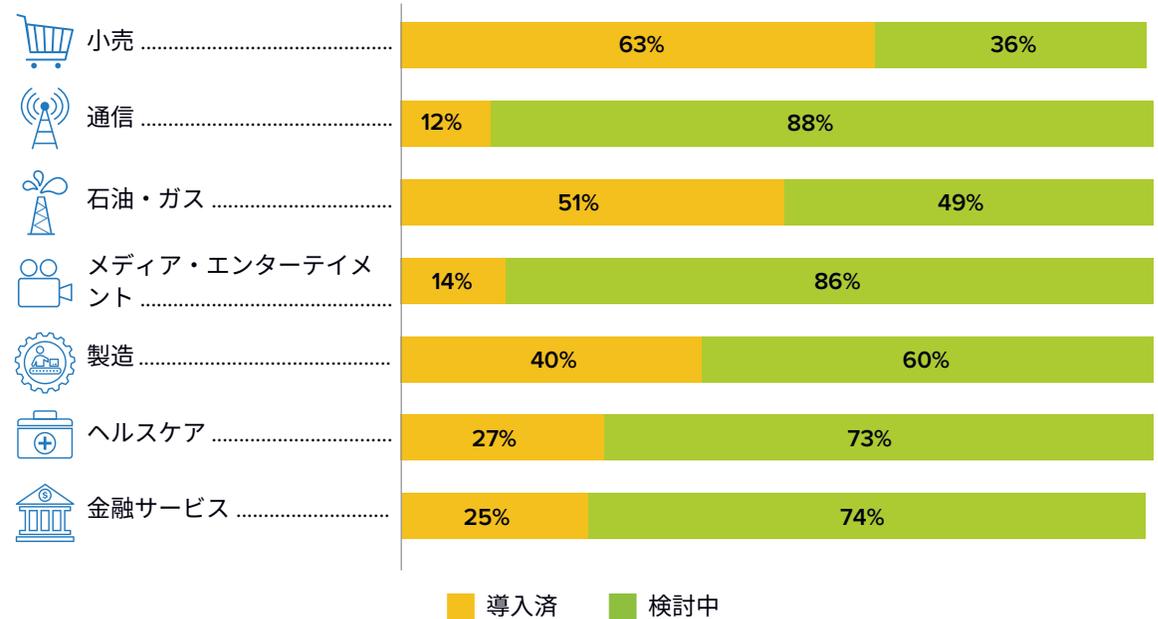
**73%**のヘルスケア企業が、アプリケーションやワークフローの構築のためにローコードソフトウェア開発を検討しています。



**63%**の小売企業はすでにローコード開発手法を導入しています。これにより、小売業者は大幅にコストを削減しながら、サプライチェーンマネジメント (SCM) から配送追跡に至るまで、ビジネスプロセスの難題に対応するソフトウェアソリューションを開発できるよう支になっています。

## アジア太平洋地域の業界別展望

このグラフは、様々な業界の組織がアプリケーション、自動化スクリプト、ワークフローの構築に取り組む際のローコードの適合性を表しています。



出典：IDC Asia/Pacific Software Survey, 2023年, n = 550

# 一般的なローコードプラットフォームとエンタープライズレベルのローコードプラットフォームの比較

デジタルビジネスの成熟の初期段階にある組織の多くは、業務を刷新するにあたり堅牢なソフトウェア開発の必要性を認識するようになります。しかし、従来のソフトウェア開発手法で取り組みを進めるには、多くの更新、支援、刷新が求められます。標準なローコードプラットフォームはビジュアル開発 / インターフェイスを提供するものの、ミッションクリティカルなビジネスアプリケーションの構築、複雑なワークフローや業務の自動化、旧式のテクノロジーの刷新には、エンタープライズ向けのローコードプラットフォームが不可欠となります。このことから、高いパフォーマンスを提供するエンタープライズレベルのローコードプラットフォームが、複雑なニーズを抱える企業にとっては最適であると考えられます。

## 一般的なローコード



社内の部門向けアプリケーションに対して、制限された俊敏性と可用性を提供します。



標準的なローコードシステムは、開発者の能力を制限することで生産性を向上させています。



ソースコードに対するガバナンス、コンプライアンス、バージョン管理がほぼ行われない基本的なセキュリティが提供されます。厳格なコンプライアンスには、セキュリティシステムの追加更新が必要となります。



生産性は向上するものの、変化への対応やソフトウェア開発ライフサイクル全体の管理が難しくなるケースが多くあります。

## エンタープライズレベルのローコード

数億人規模のユーザーとミッションクリティカルなエンタープライズアプリケーションに対応し、Web/ モバイルアプリケーションに最適です。テナント向けに最適化されたクラウドネイティブアーキテクチャを備えており、アプリケーションを数億人規模のユーザーまで拡張できます。

開発者は従来のツールを完全に制御してアプリを作成できるため、マルチエクスペリエンス開発、コードの再利用、緻密なインターフェイスの作成、コードの更新、既存のコードライブラリの容易な統合が可能になります。

アプリケーションのアップタイムに影響を与えることなく、ビルトインのチェック機能、AI 分析、専用インフラ、ディザスタリカバリ対応、脆弱性の特定など、ミッションクリティカルな顧客向けアプリに強力なセキュリティ機能を提供します。

AI と自動化を活用してソフトウェア開発ライフサイクルを短縮し、アプリ間でのコードの再利用を効率化することで、技術的負債を削減し、アプリケーションの監視を強化します。

対

# 生成 AI の実践 - AI とローコードの連携

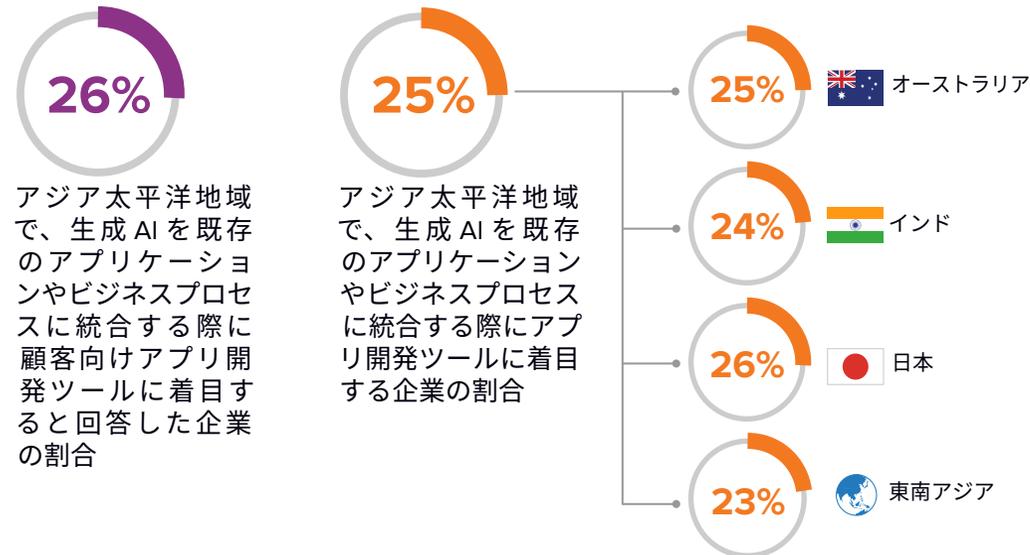
AI を活用したローコードプラットフォームはアプリ開発を変革し、AI 利用を簡素化してイノベーションを促進します。また、生成 AI によりローコードが促進されるため、開発スピードが加速し、競争上の優位性が高まります。生成 AI を搭載したプラットフォームは、ソフトウェア開発とレガシーモダライゼーションの両方に革新的なメリットをもたらすと考えられます。こうしたユースケースにより、開発サイクルの短縮、品質の向上、円滑なコラボレーション、コストの削減が可能になるのです。AI を活用したローコードプラットフォームは、迅速なコードリファクタリング、シームレスなデータ移行、堅牢な連携機能、セキュリティの強化を実現します。

## AI がソフトウェア開発に与える影響

**顧客インサイト**  
AI 駆動型の分析・推奨エンジンをローコードアプリケーションに組み込むことで、顧客の嗜好をより深く理解し、カスタマイズされたサービスを作成できるようになります。

**生産性と効率**  
近い将来、自然言語インターフェイスは、ビジュアルインターフェイスやコマンドラインインターフェイスとともに、開発者の生産性と効率をさらに高め、企業の成果を向上させることが予測されます。

## 既存のアプリケーションやビジネスプロセスへの生成 AI の組み込み



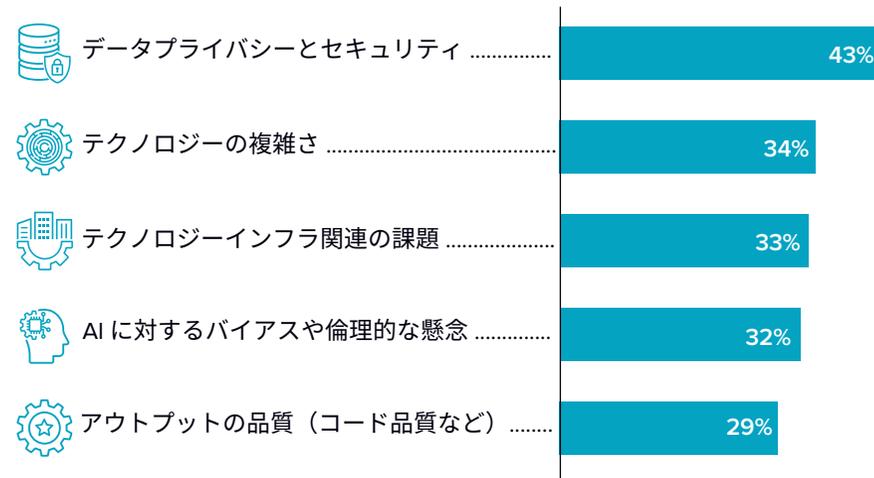
2026 年までに、新規アプリケーションの **40%** がインテリジェントアプリケーションとなり、開発者は AI を組み込んで既存のエクスペリエンスを強化し、新しいユースケースを形成することが予測されます。AI を活用したローコードプラットフォームにより、業務効率が高まり、カスタマーエクスペリエンスが向上するとともに、デジタルギャップが解消されます。

出典：Future Enterprise Resiliency & Spending Survey, Wave 1, IDC、APJ、2024 年 1 月、IDC FutureScape: Worldwide Developer and DevOps 2024 Predictions — Asia/Pacific Implications

# AI ファーストの開発手法へ移行する企業

企業は、生産性の向上、開発の加速、効率の向上を実現するために、AI を活用したアプリケーション開発の可能性を模索しています。その一方で、データプライバシーや倫理的配慮の重要性も考慮しています。

## 生成 AI の使用における主な課題



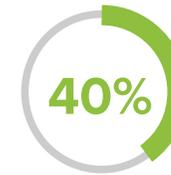
## ソフトウェア開発・設計において生成 AI の影響が大きい主な領域



生産性の向上



価値の高い開発  
タスクや創造性



開発スピードの  
加速

- ✓ AI 基盤モデルを活用したインテリジェントな開発ソリューションは、コーディング、記述、デジタルアセット制作などの生成目的で急速に職場に導入されつつあります。
- ✓ こうしたモデルが成熟するのに伴い、アプリケーション開発ライフサイクルに革命をもたらす可能性があります。しかし、企業は導入にあたり、法的問題、専門知識の不足、ガバナンスポリシーなど様々な課題に直面しています。

出典：IDC Asia/Pacific Software Survey, 2023、n = 550、IDC US — Generative AI、2023 年 4 月

# 組織が認める、イノベーションを先導する生成 AI の価値

AI や生成 AI 機能をモダンアプリケーションに組み込む能力は、アジア太平洋地域の企業がソフトウェア主導のデジタルビジネスを実現するうえで重要な要素となっています。

## 生成 AI の導入によって期待されるビジネス成果



業務効率と自動化の向上



コスト削減とリソースの最適化



カスタマーエクスペリエンスやパーソライゼーションの向上



創造性とイノベーションの向上



生成 AI を搭載したローコード開発ツールには、自動リファクタリング、自動テスト、レガシーアプリケーションの刷新や変革といった重要なユースケースがあります。生成 AI は、機械学習を活用してレガシーコードアーキテクチャを理解し、モダン化の選択肢を推奨することで、開発者がイノベーションの取り組みを拡大し、レジリエンスを高めることを可能にします。こうしたツールを使用することで、既存のコードを説明したり、BASIC や SQL といった旧来の言語をより先進的な開発言語に変換したりできるようになります。

アジア太平洋地域では、**30%** の企業が、アプリケーション開発のツールや環境に統合された優れた生成 AI 機能に対して 11～20% の上乗せ価格を支払うと回答しています。

出典：IDC Asia/Pacific Software Survey, 2023, n = 550、Future Enterprise Resiliency & Spending Survey, Wave 3、IDC、2024 年 3 月、n = 300

# IDC の提言

モダンアプリケーションにおける AI や生成 AI 機能の提供は、将来のソフトウェア開発において重要な要素になりつつあります。そこで、次はどのようなのかという疑問が生じます。組織はどのようにして生成 AI 戦略をローコード環境に実装し、デジタルソリューションの構築を簡素化、刷新、カスタマイズしていくのでしょうか。



**IT 部門を関与させる：**IT チームは、ローコードテクノロジーの選択と採用において重要な役割を果たす必要があります。これは、組織のニーズを満たすアプリケーションの革新、刷新、構築を推進する取り組みについて、IT チームは他部門よりも理解しているためです。



**ビジネス部門とテクノロジー部門の目標を一致させる：**潜在的なビジネス価値に照らして、ローコードの組織への影響を分析します。IT 支出、デジタルイノベーション/モダナイゼーションの進捗状況、IT 課題の解決スピード、ストレス要因の軽減といった主な指標を特定し、ビジネス成果と価値を最適化します。



**ローコードのセンターオブエクセレンスを構築する：**ガバナンスを確保して連携と再利用性を促進するために、ローコードプラットフォームベンダーと協力し、ガバナンスを確保して連携と再利用性を促進します。これにより、提案されたプロジェクトの潜在的なメリットとリスクを評価し、ベストプラクティス、標準化、ガードレールを実装してシステムセキュリティを確保するなど、ローコード開発を活用したレガシーシステムの刷新を支援し、実現できるようになります。



**変更管理を推進する：**これは、戦略的なアプリケーションやビジネス成果に向けてローコードプラットフォームをより広く導入する場合には特に必要となります。



**ローコードテクノロジーパートナーと連携する：**適切なパートナーは、レガシーテクノロジー、大量のデータセットを伴う AI 主導のソフトウェア開発、データプライバシー、AI のバイアスの問題に対する懸念に対処するとともに、先進的なソフトウェア開発に向けた透明なガバナンスフレームワークを確立するうえで役立ちます。



# IDC アナリストについて



## Daniel-Zoe Jimenez

デジタルイノベーション、CX・ソフトウェア、  
DNB/ スタートアップ企業、中小企業、  
コンシューマー・チャネルリサーチ担当バイスプレジデント  
IDC Asia/Pacific

Daniel-Zoe Jimenez は、シンガポールを拠点とする IDC のアジア太平洋地域担当バイスプレジデントです。デジタルイノベーション、カスタマーエクスペリエンス (CX)・ソフトウェアアプリケーション、デジタルネイティブビジネス (DNB)・スタートアップ、中小企業、コンシューマー・チャネルリサーチにおける地域の調査業務を主導しています。

Daniel は、組織の俊敏性、回復力、競争力を高めるべく、CIO、CTO、CFO、CDO、CMO、CHRO といった経営幹部を対象に、AI/ アナリティクス、クラウド、RPA、AR/VR、ERP、CRM などのテクノロジーや新しい業務モデルを開発・活用する方法について戦略的アドバイザリーサービスを提供しています。

[Daniel-Zoe Jimenez を詳しく見る](#)



## Dhiraj Pramod Badgujar

シニアリサーチマネージャー  
IDC Asia/Pacific

Dhiraj Badgujar は、IDC Asia/Pacific の Future of Digital Innovation 部門のシニアリサーチマネージャーです。バンガロールを拠点に、将来を見据えたデジタルイノベーション、DevOps、エンタープライズソフトウェアアプリケーションの調査プログラムを主導・発展させる役割を担っています。この役割において Dhiraj は、一次調査と二次調査を活用し、テクノロジーの売り手と買い手の双方にアドバイザリーサービスを提供しています。また、アジア太平洋地域の組織に効果的にアプローチして関与するうえで必要となる業界のトレンドや展開、テクノロジー調達パターン、市場のサイジングやセグメンテーション、市場開拓 (GTM) アプローチに関するインサイトを提供することで、このダイナミックかつ急成長中の市場セグメントを分析する任務を務めています。

[Dhiraj Pramod Badgujar を詳しく見る](#)

# スポンサーの紹介



## OutSystems について

OutSystems は、ソフトウェアを通じて企業のイノベーションを変革するグローバルリーダーとして、ビジネスの中核を担うソフトウェアの構築にあたり、IT リーダーに優れたソリューションを提供します。[OutSystems のプラットフォーム](#)は、ソフトウェアのライフサイクル全体を統合・自動化することで、ミッションクリティカルなアプリケーションの開発、デプロイ、保守を支援します。また、[生成 AI](#) の活用により、ソフトウェアを迅速に開発し、要件の変更に即座に適応することができるほか、将来を見据えたプラットフォーム上で開発を進めることで技術的負債を削減します。OutSystems は、主要な戦略的イニシアチブにおいて顧客のビジネス目標の達成を支援し、開発スピードを従来と比較して最大 **10 倍高速化** します。OutSystems は世界中のアナリストや IT エグゼクティブ、ビジネスリーダー、開発者から市場リーダーとして高く評価されており、何社ものグローバル企業が OutSystems を活用して難度の高いプロジェクトに取り組み、大胆なアイデアをソフトウェアとして実現し、ビジネス、人々、そして世界を前進させています。OutSystems は 2001 年に設立され、[コミュニティメンバー](#) 75 万人以上、[パートナー](#) 500 社以上、75 か国以上 21 業種にわたる顧客からなるネットワークを擁しています。

詳細は、[outsystems.com](https://outsystems.com) をご覧ください

## IDC Custom Solutions

本調査レポートは、IDC Custom Solutions によって作成されています。ここに提示されている意見、分析、調査結果は、特定のベンダーのスポンサーシップが明記されていない限り、IDC が独自に実施して公開した、より詳細な調査と分析に基づくものです。IDC Custom Solutions は、様々な企業が配布できるよう、IDC コンテンツを幅広い形式で提供しています。本 IDC 資料は外部での使用のためにライセンスされており、IDC の調査の使用または公開は、スポンサーまたはライセンシーの製品や戦略に対する IDC の推奨を示すものではありません。



IDC Asia/Pacific

The Work Project, 168 Robinson Road, Level 20 Capital Tower, Singapore 068912

T 65.6226.0330

[idc.com](https://www.idc.com)

[in @idc](#)

[X @idc](#)

International Data Corporation (IDC) は、IT、通信、消費者テクノロジー市場に関する市場情報、アドバイザリーサービス、イベントを提供する世界有数のグローバル企業です。

IDC は、世界 110 か国以上に 1,300 人を超えるアナリストを擁し、テクノロジーや業界の動向に関する世界規模、地域別、国別の専門知識を提供しています。IDC の分析とインサイトは、IT プロフェッショナル、企業経営者、投資コミュニティが事実に基づいたテクノロジーの意思決定を行い、重要なビジネス目標を達成するうえで役立ちます。

©2024 IDC. 許可なく複製することは禁止されています。無断転載を禁じます。 [CCPA](#)